

波乱に抵抗する「ASEAN5+インド」株 1-3月も堅調維持の「ASEAN5+インド」株に引き続き注目

2022年4月1日

ウクライナ情勢に対する地理的・政治的距離感がプラスに

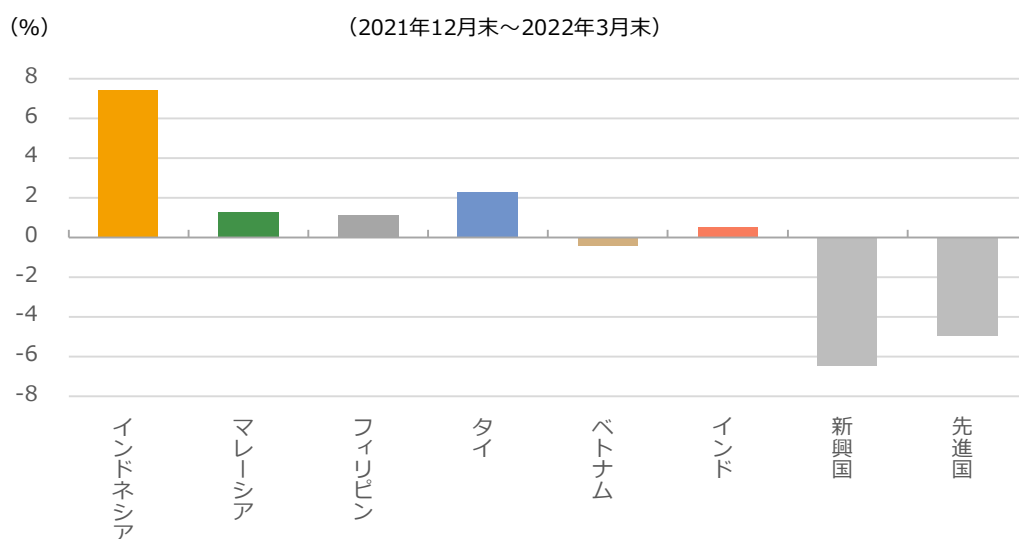
当社では昨年12月28日に『2022年は「ASEAN5(*)+インド」株に注目』という表題のマーケットレターをホームページに掲載していますが、この1-3月の「ASEAN5+インド」株はおおむね堅調でした【図表1】。 *インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの5カ国（アルファベット順）

世界的に見ると1-3月の株式市場は、米国の早期利上げ観測やロシアのウクライナ侵攻を受けてリスクが強く意識され、下落しました。しかし「ASEAN5+インド」株は上昇か、下落しても僅かなマイナスに留まりました。ウクライナと地理的な距離があり、欧州などと比べ紛争の直接的な影響が軽微であるほか、経済制裁による経済活動への影響なども相対的には軽いとみられる点が、投資家の安心感につながったと思われます。

資源価格高騰も貿易収支にプラスの国とマイナスの国がバランスしており、全体的には安定感を発揮しています【図表2】。また、以前であれば米国の利上げ局面では各国通貨安が進み、資金流出の懸念が高まりがちでしたが、最近は国際金融面でのぜい弱性が後退しており、この1-3月は米ドルに対する各国通貨安も限定的でした。なお、円に対しては各国通貨高・円安となっているため、もし日本から為替ヘッジ無しで「ASEAN5+インド」株に投資していれば、為替でも収益が得られた可能性があります【図表3】。

新型コロナウイルスに関しては、1-3月も各国で感染拡大がみられましたが沈静化しつつあります。今後もインフラ投資など各国の経済政策が、相対的に高めの経済成長に寄与すると想定されます。ウクライナ情勢が落ち着いてくれば、これらのプラス面がより評価されやすくなると考えられます。

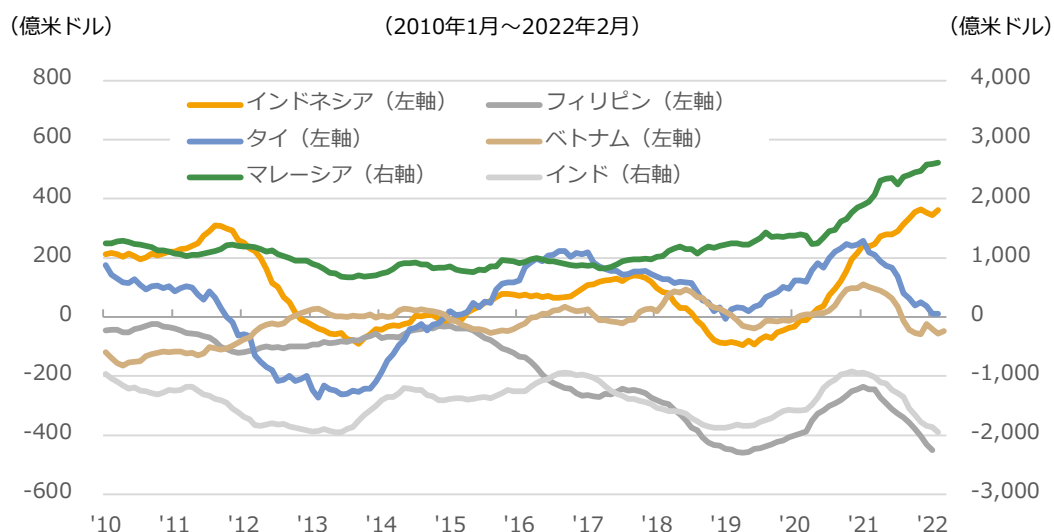
■ 図表1：2022年1-3月の各国・地域の株価指数騰落率



※各株価指数 インドネシア：ジャカルタ総合、マレーシア：FTSEブルサマレーシアKLCI、フィリピン：フィリピン総合、タイ：SET、ベトナム：VN、インド：S&P BSEセンセックス、新興国：MSCIエマージングマーケット、先進国：MSCIワールド

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

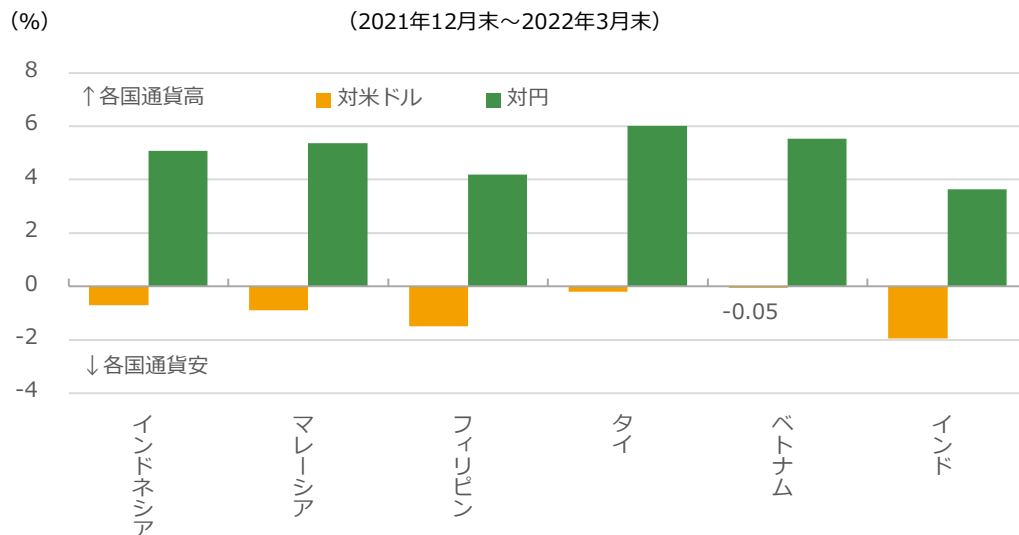
図表2：各国の貿易収支（12カ月累計）



※フィリピンは2022年1月まで、ベトナムは2022年3月まで

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

図表3：2022年1-3月の各国通貨の対米ドル・対円騰落率



※各国通貨 インドネシア・ルピア、マレーシア・リングギット、フィリピン・ペソ、タイ・バーツ、ベトナム・ドン、インド・ルピー

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。